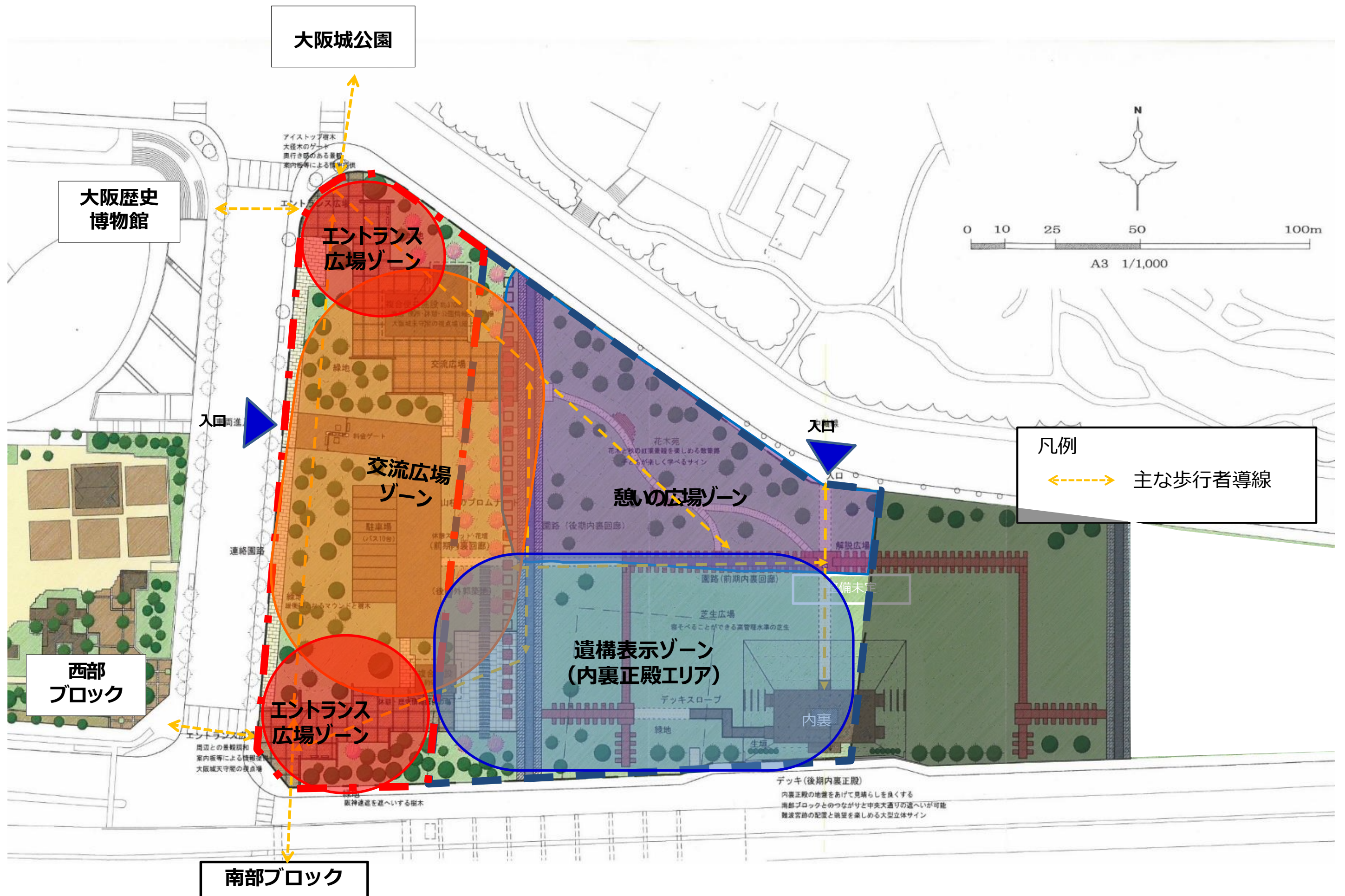


【資料3-1】 北部ブロックゾーニング図（案）



【資料3-2】 ゾーニング別整備内容

動線計画

- ①安全で広くて歩きやすいスムーズな園路を整備する。
- ②北部ブロックの中心となる内裏正殿や瓦堆積の実物遺構などを効率的に見学でき、また情報収集等が行えるようなメイン動線を整備する。その際、回廊等の遺構表示を活かしたものとする。
- ③既存の入口を活かした整備を行う。

憩いの広場ゾーン

- ①内裏正殿北側のエリアは内裏の日常生活空間であったことを考慮し、食事をしたり、寝転んだりできる憩いの芝生広場として整備し、歴史を感じながらレクリエーションを楽しむ空間とする。
- ②後期内裏回廊は、南北軸の主園路としても整備する。
- ③多くの人が集い、休憩できる広場を形成する。

エントランス広場ゾーン（北西）

- ①大阪城公園方面からスムーズに入園しやすい広々とした空間とする。
- ②大阪城公園、大阪歴史博物館、難波宮西・南部ブロックの行き来を誘導するプロムナードの導入口として、交流広場ゾーンへの視線誘導、期待感、見え隠れ効果のある配置計画を行う。
- ③大阪城公園からの人の流れを導くエントランスとして、各ブロックへ誘導する案内情報や道標を設置する。

エントランス広場ゾーン（南西）

- ①南部、西部ブロックとの結節点として、広くて開放的なエントランス広場を整備する。
- ②東側に広がる遺構表示ゾーンへの視線誘導、期待感、見え隠れ効果のある配置計画とする。
- ③大阪城天守閣を主対象とする良好な視点場を活かす。
- ④既に整備された西部ブロックおよび大阪歴史博物館との景観調和を図る。

遺構表示ゾーン（後期内裏正殿エリア）

- ①後期内裏正殿は内裏の中心建築であることから、基壇を復元するなど存在感のある整備をおこない、大阪城天守閣をはじめ、南部ブロックや周囲への眺望を楽しむことができるようにする。
 - ②遺構を一般の人にも分かりやすくするための解説板を要所に配置する。
 - ③景観阻害となる南側道路とその境を緑化にて遮蔽し、落ち着いた内裏空間を演出する。
 - ④前期内裏回廊は、内裏の範囲を示し、内裏のスケール感を出す役割を果たし、園路としても機能する整備を行う。
- ※遺構表示の内容は一部変更になる可能性があります。

交流広場ゾーン

- ①難波宮跡はもとより大坂城跡を含む上町台地の文化財について、多くの来訪者が解説展示等により理解を深めるための学習機能や、安全快適に見聞するための便益機能を集約した利便性の高い複合施設を設置する。
- ②難波宮跡の導入部として、難波宮の全体像とそこでの北部ブロックの位置が理解できるような解説板等を設置する。
- ③各施設の利用者や、小中学校等の教育関連機関が難波宮跡を歴史体験学習の場として利用することを考慮して、駐車場を整備する。